

審査結果報告書

2023年 1月 23日

主査 氏名 三枝 信 印
副査 氏名 高橋 優子 印
副査 氏名 加藤 一喜 印
副査 氏名 下銀元 錠 印

1. 申請者氏名 : DM19002 天野 統之

2. 論文テーマ :

High HNRNPA3 expression is associated with lymph node metastasis and poor prognosis in patients treated with radical cystectomy
(膀胱癌におけるHNRNPA3発現と臨床病理学的因子の検討)

3. 論文審査結果 :

膀胱癌は、罹患率、死亡率の比較的高い癌である。このうち、筋層浸潤性癌やBCG抵抗性筋層非浸潤癌では、膀胱全摘術が施行されるが、約半数の症例は5年以内に再発する。このような症例の予後予測因子として古典的な臨床病理学的因子があるが、実臨床で用いられるバイオマーカーは未だ同定されていない。そこで、申請者は、核酸代謝に関連する heterogeneous nuclear ribonucleoprotein A3 (HNRNPA3)の膀胱癌の予後因子としての有用性について検証した。対象は、122例の術前化学・放射線療法の未施行の膀胱癌全摘症例の病理組織検体で、免疫組織学的にHNRNPA3発現を解析した。その結果、HNRNPA3高発現群は低発現群に比べて、リンパ節転移が有意に高頻度であったが、他の病理組織学的因子との関連性は乏しかった。予後との関連性は、単変量解析でHNRNPA3、腫瘍の深達度、組織学的悪性度、リンパ節転移、リンパ侵襲が関連したが、多変量解析ではリンパ節転移のみが癌死の独立した予後因子であった。その他、HNRNPA3発現は、S100A8, S100A9, uroplakin IIIと有意な関連性を示したが、その意義には更なる解析が必要であった。以上から、申請者は、HNRNPA3が膀胱癌の新規バイオマーカーとしての可能性に言及した。公開審査では、申請者は主論文の内容について約20分にわたり詳細な発表を行い、その後の審査員からの多種多様な質問についても適切に答えることができた。審査員は、学位論文の内容の高さ、質疑応答の的確さから、医学博士の学位に十分値する判断した。